慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「東洋之佳人」稿本、「繪入讀本外題作者畫工書書肆名目集」寫本
Sub Title	A bibliographical introduction to the MSS : (I) MS, which proves the spurious authorship of Tokai Sanshi's "The Lady of the East." (II) A note-book of an Edo publisher.
Author	森, 武之助(Mori, Takenosuke)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1955
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.5, (1955. 11) ,p.125- 127
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00050001-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料紹介

（解題）　森　武之助

「東洋之佳人」稿本　一冊

裝幀。寸法――一九・一糎×二七・八糎。

表紙――無紋黃色紙。題簽――六糎×一五・八糎中央貼付「天囚批評東洋之佳人　初稿」ト墨書。本文――美濃紙二十字詰二十行有罫原稿用紙ニシテ上部ニ頭書用トシテ八・五糎ノ空欄ヲ用意シ、柱ノ下部ニ「東海散士」ト印刷。全丁、十四丁。一丁ォ「東洋之佳人　全」ト墨書シ右偶ニ「太華山房藏書」ノ方朱印。一丁ゥヨリ二丁ゥマデ太華自筆ノ識語。三丁ヨリ本文始リ十三丁ゥニ畢ル。各丁ニ天囚自筆ノ朱記セル鼇頭アリ。十四丁ォ同ゥ央マデ同筆跋文アリ。

太華自筆識語の全文を左に掲ぐ。（句讀點は解題者が假に加えた）

「此稿は明治二十年八月に成る。當時余は柴東海に伴はれて、暑を清見寺に避け、佳人之奇遇六編續稿を艸す。山寺清三郎を從ふ。山寺は會津產、獨眼矮小年二十許、細字を工にし米粒にいろは四十八字、又は五言絕句を書す。又詩才あり、絕句を作る。此行、主として余の草稿を淨寫す。同寺に寓する十餘日後、書估博文堂、原田庄右衞門來る。佳人奇遇の發賣人なり。原田、散士署名の短篇小說を出版せんと欲し、余に之を請ふ。酒間、余、之を散士に告ぐ。散士笑て原田に、稿料幾許を太華に酬いんとするか、余は一錢を受けず。と問ふ。原田一枚二十五圓を獻ぜんと答ふ。余、依違して應ぜす。散士傍より、我證人たるべし。博文堂二言あるべからず。と云ふ。原田、拜伏して懇請す。此前日、余、散士と舟を浮べて三保に遊び、外洋に遊泳を試みて歸る。卽ち其夜、直に筆を執りて之を草す。山寺生、傍より余の草するに從ひ、一葉一葉、之を淨寫して、一夜に全く成る。是本卽、當時淨寫の稿本なり。博文堂辭し去るに及び、之を西村天囚に轉致して評語を加へしむ。天囚、時に落泊して窮境に沈淪し、身を寄するに處なし。時に博文堂に來りて寐食することあり。余に又需むことある頻々たり。卽ち十五圓を贈らしむ。評語は

博文堂の矮樓中にて艸する所たり。當時、天囚二十三歳、余は正に二十五歳。今日此稿本に對して眞に夢の如し。明治三十八年六月。太華印」

明治文學史に重要なる位置を占める大作、「佳人之奇遇」を巡り、その著者、柴東海散士に對する高橋太華、西村天囚、兩氏の關係は、夙に研究諸家に論議せられている問題であるが、本塾圖書館藏の本稿本は、これに關與する有力なる資料故、こゝに報告して參考に供せんとするものである。太華の識語は凡てを語り、解説の要なきものである。因に、刊本「東洋之佳人」（明治廿一年博文堂刊）と本稿本を比較すると、刊本は、その後の推敲を經て、かなり字句に變遷が認められるが、二十字二十行一丁、總計十四丁で、字數は稿本とほとんど同一である事を知る。天囚頭書の批評、及び跋文も同樣である。但、刊本には、末廣鐵腸、榊原鐵硯、二氏の序、及び挿畫、見開き一葉を付加してある。

「繪入讀本外題作者畫工書肆名目集」寫本　一冊

裝幀。寸法――一三・二糎×一八・二糎。表紙――桐空刷模樣アル縹色紙。題簽――左側二・一糎×一六糎貼付「繪入讀本外題作者畫工書肆名目集　完」ト墨書。本文――美濃半截五十丁（實丁）。內二十四丁ハ補寫。二ノォ上部ニ中川得基、下部ニ幸田成友藏書印。奥ニ「大正六年五月下浣以林若吉氏藏本補正　成友」ト墨ニテ記ス。

本寫本十六丁ゥまでは、文化四年より同九年に至る繪入讀本の書名、作者、畫工名、及び册數、版元名を筆記し、且、廻狀日、校本出來、上本、賣出し日付其の他を註記す。十七丁以後は、江戸書物問屋名、貸本屋、せり本渡世の者等の名を揭げ、次で同年中の書物地本問屋、行事當番、貸本屋世話役の名を列記す。本寫本の紙質、文字より、當時の書肆の手控への忠實なる寫しと考えられる。

その一端をこゝに揭げる。

四十八癖　初編全　三馬作　國直畫　鶴屋金助

㊟　十二月十日出申正月三日上木四日賣出し

續膝栗毛　二冊　一九作　村田屋次郎兵衛

㊟　十二月十日出同廿五日上木廿六日賣出し

田舍芝居　忠臣藏　同　三馬作　鶴屋金助

㊟　十二月廿日出申十二月十四日上木十六日賣出し

柳髮新話　浮世床　同　同　同所

㊟　十二月廿一日出申十月朔日上木五日賣出し

文化九之申年正月より三月迄　○佐久間

繪本一休譚　六冊　春曉齋畫作　引請　前川六左衞門

二月七日北より廻狀五月十三日上木同日賣出し

櫻木物語　五冊　東漁作　玉山畫　西村屋與八

正月廿四日廻狀二月九日廻る六月十八日上木二十日賣出し

右の如く江戸後期讀本出版の實狀の一端、卽ち稿本より刊行、賣出しに至るまでに要する月日の實際を知り得、刊記とのズレを證し得る點は誠に貴重である。且、本書中所々に「無障」或は「上、中、障」の如き朱書あり。書物取締りの具體狀境を推量し得て、興味深きものがある。本書も亦、本塾圖書館架藏。